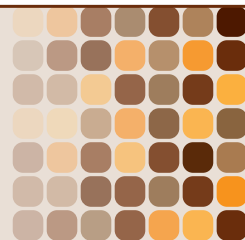


ポート・ヒロックで暮らす

LIFE IN PORT-HILLOCK

ご入居の方のインタビューや生活の様子をご紹介します



トークディスカッション IN ポート・ヒロック

アメリカには、リタイアしたシニア層が健康なときから入居し、介護が必要になっても移転することなく同じ敷地で一貫して支援サービスが受けられるコミュニティ、*CCRCがあります。そのCCRC研究の第一人者、株式会社三菱総合研究所の主席研究員・チーフプロデューサー松田智生氏と在米邦人向け情報誌「ライトハウス」のCEO込山洋一氏をポート・ヒロックにお迎えし、ご入居者との座談会を行いました。



*CCRC: Continuing Care Retirement Community の略称。高齢者が心身の状態の変化に応じて、住宅、生活支援、健康支援、介護・医療などの様々なサービスを継続的にひとつの敷地内で受けられる共同体のこと

現在、アメリカには約 80 万人の邦人が暮らしています。シニア層の割合も年々増加し、高齢者問題に対する意識も高く、多くの方々はアメリカの医療費やシニア向け住宅の家賃が割高な事などを敬遠し、また、介護が必要になった時の言葉や食事など、文化的な習慣への不安から日本への帰国願望が強いようです。このことから、帰国後入居された方も住むポート・ヒロックが座談会の場所選ばれました。

参加者はアメリカやカナダ、欧州などで20～45年間生活された70～80代のご入居者3名。ご入居のきっかけや今の生活の様子、今後の目標などを中心にインタビューを受けました。各々が生き生きと、安心して生活している事を率直にお話され、非常に盛り上がった座談会となりました。

CCRCをコンセプトに、介護と医療を融合させ、それまで日本にはなかった、医療の充実した新しい形の老人ホームを作ろうと、ポート・ヒロックが開設されたのが2007年。今回、CCRC研究の第一人者である三菱総合研究所の松田氏とCCRCの本場アメリカでご活躍の込山氏にご来館頂いたことはポート・ヒロックにとって非常に光栄な事でした。

Q1

ポート・ヒロックを知るきっかけは？

「暖かい土地、広めの居室がある」を条件にインターネットで探しました。

沖縄に住む妹に教えてもらい、一緒に見学しました。

実家の近くなのでよく見ていましたし、また家族も知っていました。

Q2

入居してよかった事は？

綺麗な沖縄の海を眺められることです。
また、医師（嘱託医）の指導で食事管理を行い、数値が改善！体重も落ち、健康になりました。

なんといっても安心です！
居室にあるナースコールや病院の事など
近くの親類よりポートの職員（笑）！

病院や将来の介護についての不安がなくなったことです。



県外や海外からのご入居者もお住まいです

ポート・ヒロックには県内はもとより、県外や海外からのご入居者もお住まいです。座談会に参加していただいた方々の他にも、台湾、イギリス、タイなどから帰国後にご入居された方など、国際色豊かです。ご友人、ご親戚で帰国をご検討中の方がいらっしゃいましたら、入居相談員までどうぞお気軽にお問い合わせ下さい。